

NEWS LETTER



～ボランティア塾
in 鶴嶺高校の様子～



CONTENTS

- ・ 平和 & 共生コンサート
～湘南に響く被爆ピアノ～
- ・ これからの予定(12月～3月)
- ・ 開催報告
「ボランティア塾 in 鶴嶺高校」
「IT スキルアップミニ講座 2」
「SDGs カフェ 13」「NPO 講座 2」
- ・ 「図書」、「貸出備品」のお知らせ
- ・ 「さぼちゃんが行く！」茅ヶ崎市
合理的配慮促進条例を考える会
- ・ お知らせ/カレンダー

#サポセンはみんなの想いでできている



耳が聞こえない、聞こえにくい方とコミュニケーションを取るための「筆談ボード」を用意しています。手話ができればよいのですが主には紙とペンで。時には手話通訳者や要約筆記者の方々の力もお借りしながら、ミニホワイトボード、電子メモパッド、スマホの音声文字変換アプリなど様々なツール＋ボディアランゲージで意思疎通を図ります。視覚でわかるサインの工夫もしながら、ちょっとずつ手話言語への理解も深めていきたいです。



開催案内

平和 & 共生コンサート ～湘南に響く 被爆ピアノ

終戦 80 年の節目となる令和 7(2025)年、広島原爆による被害を受けたピアノと、管理・所有者の矢川光則さん(被爆二世/ピアノ調律師)を湘南に迎えます。原爆で傷ついたピアノの温かな音色で「平和」の大切さと、障がいを持つ人たちとの共演によるインクルーシブな表現で「共生」を伝えます。

▶開催日時：12 月 13 日(土) 13:00～16:00 (開場 12:30)

▶会場：ちがさきサポセン

入場無料
観覧自由

被爆ピアノ演奏体験者 募集！

定員 5 名 (要申込/先着順)

- ・ 演奏はひとり 5 分以内
- ・ 貴重なピアノです。丁寧な演奏をお願いします。
- ・ リハーサルはありません。



パフォーマンス共演者募集！

音楽朗読劇や歌・演奏・ダンスと一緒に楽しみたい人を募集しています。(12/13 のコンサートに向けて、事前ワークショップを開催！お気軽に参加ください)



詳細は LINE オープンチャットまで▲

共催：湘南 SHOW 点、認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき 協力：日本被団協地方組織 座間市原爆被災者の会



ちがさきを知る
みんなでつながる
新しいことにチャレンジする



こどたん + 2026

開催日 2026年 3月 14日 (土) 10:00~15:30

会場:「ちがさきサポセン」



ワフワフ
どきどき
ウキウキ

館内
ワークショップ

屋外
ワークショップ
物品・軽食販売

学んで遊べる

体験・お買い物



今年もやるよ〜! 「まつり盛り上げ隊」!

任務の詳細が決まり次第、HP などでお知らせします。お楽しみに♪
こどもから大人まで、隊員になって一緒に盛り上げましょう!

「会員証」もあるよ

サンプル



▼▼運営ボランティアも募集します!▼▼

あなたのちょっとしたチカラでまつりを一緒に盛り上げてみませんか

👉 何かやってみたい! 👉 市民活動ってどんな感じが気になる〜!

〜興味がある方、お待ちしております〜

いつでも誰でも楽しめる♪

「サポセン企画」

“ワードラリー”

“ちがさきらしさ☆サポセンきょ”

詳しくは次号(1月号)にて紹介

参加団体もまだまだ募集中! (募集締切: 11/30(日))

詳細は
コチラ



SDGsカフェ
とは…

毎回多様な分野で活躍するゲスト講師をお招きし、「誰ひとり取り残さない」社会の実現をめざして、SDGs に関わる具体的な活動実践について学びながら、参加者同士の顔の見える関係を築くきっかけづくりの場です。



「自分のため」が「まちのためになる」
シニアの一步が、まちの未来を動かす



「これからの自分」を見つめ直し、「新しいつながりや役割」について語りあいながら未来のまちへの一步を踏み出す“気付き”や“きっかけ”のヒントを見つけてみませんか。

▶開催日時: 12月 21日(日) 14:00~16:00

▶ゲストスピーカー: 中田 和之さん (NPO 法人シニアも社会を支える国へ 副代表理事 事務局長)

杉山 仁 さん (NPO 法人 NPO サポートちがさき 常務理事・地域デビューアドバイザー)

▶対象: これからシニアに活躍してほしいと思っている市民活動団体や地縁団体、
新しい仲間と出会い、これからの生き方を考えたい方、
地域社会と新しいつながりを持ちたい方 など

▶定員: 30名 (申込制、先着順) ▶会場: ちがさきサポセン ▶参加費: 無料

手話通訳・要約筆記をご希望の方は 12月 5日(金)までにお申込みください

申込はコチラ





最終回となる今回は、市民セクターによる SDGs 活動の全国的な動きを学び、茅ヶ崎市における SDGs 活動の現況を見つめ直します。後半は複数の主体が連携して進める SDGs 活動の実践アイデアを生み出すワークショップをしながら、SDGs 推進の新しいカタチをみんなで考えます。

▶開催日時：1月31日(土) 14:00～16:30

▶講師：星野 智子さん（一般社団法人 環境パートナーシップ会議 代表理事）

▶対象：まちづくりに関心のある市民、市民活動団体、自治体職員ほか

▶定員：30名（申込制、先着順）▶会場：ちがさきサポセン ▶参加費：無料

手話通訳・要約筆記・託児(6か月～3歳/先着3名)をご希望の方は1月16日(金)までにお申込みください

申込はコチラ



これまでのあゆみ

1▶▶15

これまでにお招きしたゲストスピーカーは、環境、福祉、保健・医療、人権、農業などの分野で活動する市民活動団体や個人事業主、社会貢献を進める企業など。毎回、ゲストスピーカーから実践報告をしていただいた後、グループワークを通じて参加者間の交流を深めました。

	年	日	タイトル	ゲストスピーカー(肩書は当時のもの)
1	2021	10/24	みんなで創る 誰一人取り残さない社会	高木 超さん（慶応義塾大学大学院 特任助教）
2		2/5	スポーツでつながろう！いつまでも元気に、楽しく住み続けられる私たちの未来まちづくり	(一社)アステム湘南スポーツソサエティ
3	2022	3/12	「宝物であふれるまちに～みんなで考えよう茅ヶ崎のごみのこと～」	BENIRINGO
4		9/10	誰もが生き生きと暮らせる地域を創る～ユニバーサルデザインの考え方と実践から～	関根 千佳さん（(株)ユーディット会長兼シニアフェロー）、NPO法人サンカクシャ
5		12/3	障がいのある人とおしゃべりしませんか～津久井やまゆり園事件から6年、障がい者は今～	NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン
6	2023	5/25	地域の力が集まった「新しい交流の場」創りませんか～休耕田んぼの活用でみんなを笑顔に～	おもちの田んぼの会、タゲリ米農家
7		11/26	多文化共生の地域社会づくり～誰もが生き生きと暮らせるために～	茅ヶ崎市国際交流協会
8		2/17	「わたしはわたし」自分らしくいられる社会・選択肢が多い未来を～SOGI・LGBTのことを考える～	にじ色のたねを育てる会
9	2024	3/23	地域とともに歩む企業の社会貢献活動	(株)アルパック
10		10/27	～地球とわたしたちのくらし～グローバルな3つの視点から考える	鳥羽瀬 孝臣さん（東京理科大学非常勤講師）
11		1/11	地域で活きるあなたの力 ちょこっと健康おせっかい	PuHU～わくわくする健康おせっかい(旧)コミュニティナース茅ヶ崎
12	2025	1/26	農がなければ食もなし～地域から考える都市農業の未来～	NPO法人 ふるさとファーマーズ、オーガニックーちがさき、茅ヶ崎どっこいファーム
13		10/19	～次世代と地域が交わる、ひらめきの場～やってみたいがまちと心を動かす瞬間	学生団体 ニューコロンプス
14		12/21	「自分のため」が「まちのためになる」シニアの一步が、まちの未来を動かす	NPO法人 シニアも社会を支える国へ、NPO法人 NPOサポートちがさき
15	2026	1/31	みんなで描く ちがさきの未来～多主体連携によるSDGsの推進を通して～	星野 智子さん（(一社)環境パートナーシップ会議 代表理事）

NPO 講座3

市民活動の「持続可能な組織づくり」のために… 「資金づくり」

活動に必要な多様な収入源や資金づくりの基礎知識について。持続可能な組織づくりに役立つヒントを学びましょう。

▶開催日時：1月25日(日) 14:00～16:00

▶講師：森 玲子さん（東京ボランティア・市民活動センター 専門員）

▶対象：ボランティア・市民活動をしている方、これから始めようと考えている方、活動団体の法人化を検討している方など

▶定員：20名（申込制、先着順）▶会場：ちがさきサポセン ▶参加費：500円（資料代）

手話通訳・要約筆記・託児(6か月～3歳/先着3名)をご希望の方は1月8日(木)までにお申込みください

申込はコチラ



もっと知りたい！サポセンのこと

～市民活動応援プログラム～ 2025 年 10 月～11 月 開催報告

開催報告

ボランティア塾 in 鶴嶺高校 2025

- ◆日時：2025 年 10 月 2 日(木) 1 授業目(13:25～14:10)、2 授業目(14:20～15:05)
- ◆場所：1 年生教室及び音楽室他特別教室（18 カ所の教室） ◆対象：1 年生 388 名
- ◆探究授業内容：「高校生の未来へのきっかけづくりに向けて」～市民活動団体 18 団体による選択授業～

2010 年から鶴嶺高校の探究学習の授業支援として実施しているボランティア塾は、サポセンが市民活動団体による授業をコーディネートし、団体の活動や思いを直接高校 1 年生に伝えている若者支援事業です。

鶴嶺高校では総合的な探究の時間で「自己理解と地域理解を通じてグローバルな視点基盤を作る」ことを目指しています。今年の一年生はそのための方法としての「探究のサイクル」(①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現)を意識した授業を行っているの、それを考慮した授業、また、生徒の進路や将来に向けての何かのきっかけになるような授業が求められました。

<新しい試み>

昨年生徒のふりかえりでは、「団体の授業が 1 コマでは自分の受けた授業が受けられない」、団体のふりかえりでは、「授業時間をできるだけ長く取りたい」「多くの生徒と触れ合いたい」、との意見が多くありました。そこで今回は授業時間を少し長くし、生徒は二つの授業を選ぶという新しいスタイルにチャレンジしました。

参加 18 団体には事前ヒアリングを通して内容や準備を伝えましたが、今年は方法もテーマも例年とは異なるものだったので、試行錯誤した団体もあったようです。また、準備時間が短くなってしまって慌ててしまうこともありましたが、無事に終わられたことに感謝いたします。

<参加団体ふりかえり(回答 18 団体)>

- 今回の授業準備はスムーズにできましたか？
「とてもスムーズにできた」→ 50%
- 授業時間(45 分)の長さはどうでしたか？
「ちょうどよかった」→72%
- 生徒の反応や感心度はどのように感じましたか？
「関心を持って聞いていた」→62%
- 同じ授業を 2 回行ってどう感じましたか？
「2 回実施することで内容を改善できた」→56%

授業を通しての気づきや学びでは



▲授業前の団体控室

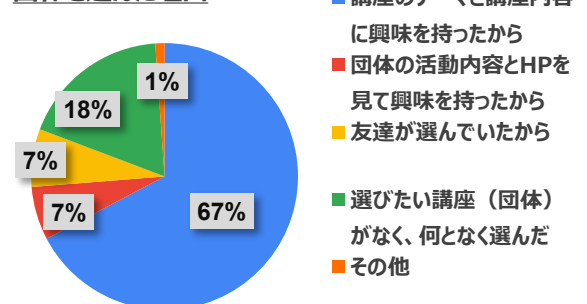
- ・何かを学ぼう、よく聴こうという前向きな姿勢がとても嬉しかった
- ・高校生と交流できたことが新鮮で新しい発見があった
- ・高校生(若者)の反応を毎年知る事が出来るのが嬉しい
- ・伝えたい内容を更に精査する必要があるなど、ポジティブな意見が多数でした。

<生徒ふりかえり>

- 「講座を受講して興味や共感を持つきっかけになったか」という問いには 90%の生徒が「YES」でした。そしてその理由は「講座が面白かったから」と「知らないことを知るきっかけになったから」で 90%を超えていました。その他、意見・感想として、
・進路で悩んでいたけれど、こういう生き方もあるんだなと知れて良かった。

- ・自分のやりたいことで将来の仕事を決めたいと思った
- ・自分を見つめなおす時間になった
- ・意外と身近にスポーツボランティアがあるんだなと思った
- ・何かを始めるのに遅いということはないんだなと思った
- ・自分が人生の中で大切にしたいことが何となく見えてきて将来について少し考えやすくなった
- ・自分のできることのイメージを持つことができた
- ・高校生ができることがいっぱいあることを知れた
- ・もっとボランティアについて知ろうと思った
- ・一人からでもできるんだなと感じた

団体を選んだ理由



<今後に向けて>

探究の授業は「未来を生き抜く力」を育むために、生徒が主体的に探究し、知識を深め、実社会と接する多様な学びが展開されます。その中で、ボランティア塾は高校生と市民活動を繋ぐ活動として、学校と連携を取りながら、授業内容の改善、段取りの工夫に取り組んでいきたいと思っています。一人でも多くの高校生が、何かを感じてくれることを期待して、これからも若者支援として積極的に取り組んでいくつもりです。

《参加団体》

一般社団法人 遊びでまちづくりする準備室/未来を考える市民の会/一般社団法人 アステム湘南スポーツソサエティ/わんにゃんマルシェ/チームみつばち/BENIRINGO/防災スイッチオン！プロジェクト/「わーく」編集部/平和を考える茅ヶ崎市民の会実行委員会/ふらっと南湖/茅ヶ崎市国際交流協会/サンチャイ・ネパールねばるば/NPO 法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会/茅ヶ崎 CAD 部/筆記通訳サークル「虹」/乳がんサポート湘南ちがさき Akala/にじいろ・ひまわり/市民劇団オンリーワン



◇日 時：2025 年 9 月 20 日(土)・27 日(土) 14:00～16:30

◇講 師：村田 久美子さん (NPO 法人パソコンボランティア湘南)

◇参加者：8 団体 9 名

団体の活動をもっと多くの人に知ってもらいたい、そんな思いを形にするための「Canva 活用講座」を開催しました。無料で使えるグラフィックデザインツール「Canva」は、専門知識がなくてもチラシや SNS 投稿などを手軽に作成できる人気のアプリです。講座では、アプリの画面構成や基本操作、テンプレートの活用、チームでのデータ共有や印刷用データの保存方法などを、実際に操作しながら学びました。また、近年注目されている AI を活用したデザイン機能にも触れ、広報の幅を広げる新しい視点を得ることができました。

アンケートでは「多機能で驚いた」「丁寧なサポート

で分かりやすかった」「ブログや SNS にも活用したい」などの感想が寄せられ、満足度の高い講座となりました。一方で「初心者には少しスピードが速かった」「もう少し回数を増やして学びたい」といった声もあり、次回への期待も高まっています。

Canva をきっかけに、デザインや AI 活用などの新しいスキルを身につけたいという意欲的な参加者が多く、市民活動の発信力向上につながる学びの場となりました。



第13回

SDGs カフェ

～次世代と地域が交わる、ひらめきの場～
「やってみたい」がまちと心を動かす瞬間。



◇日 時：10 月 19 日(日) 14:00～16:00

◇ゲストスピーカー：松山 亮翔さん (学生団体 ニューコロンプス 第 5 代船長) ◇参加者：13 名

3 名から始まったニューコロンプスは、今や 210 名の仲間とともに航海する大きな船へと成長。「一期一会」「素直」「怒られるまでやる」「楽しむ」の理念のもと、船長・松山さん (高校 3 年生) は「#ワクワクする」を軸に学生の可能性を広げています。

今年 10 月には、藤沢駅前広場で、学生主体で企画・



運営した「藤の盆」を開催。子どもの頃の“ワクワク”を原点に、お祭りの思い出を再現したこの挑戦は、地域の協力を得て「やってみたい」を形にしたものです。

クロストークでは「バックキャストिंग」の紹介とともに、「正解はひとつではない」との示唆も。

後半のグループワークでは、ニューコロンプスの航海士メンバーも加わり地元の中高校生と地域の大人が対話を通じて交流し、学生たちの“ワクワク”に気づく過程が共有されました。「一歩踏み出すこと」は学生に限らず誰にでもできるという松山さんの言葉は参加者の心に響き、ニューコロンプスの活動が楽しさと挑戦を呼び起こす“ワクワクの循環”として地域に広がっていることを実感しました。ちがさきサポセンに響いた若者たちの声は、地域に新たな風を吹き込み、未来への希望を感じさせる温かな時間となりました。

NPO 講座 2

持続可能な組織づくりのために…「団体立ち上げ、組織のカタチ」

◇日 時：11 月 9 日(日) 14:00～16:00

◇講 師：森 玲子さん (東京ボランティア・市民活動センター 専門員) ◇参加者：10 名

本講座では、市民が主体となる非営利の活動をどのように立ち上げ、持続可能な組織へと育てていくかをテーマに、活動のはじめ方から団体化・運営基盤の整備までを体系的に学びました。講師からは、社会課題への「気づき」から行動が生まれること、一人の思いを共有しながら仲間とともに活動を形づくっていく重要性が語られました。また、任意団体と法人格の違いや、会計・意思決定・会則づくりなど、継続的な運営に欠かせない基本事項についても具体的な事例を交えて説明がありました。グループワークでは、参加者が自らの活動目的やミッションを言葉にして共有する時間が設けられ、互い

の思いを確認し合う貴重な機会となりました。

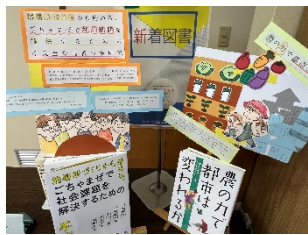
アンケートでは「具体的で実践的だった」「任意団体でも多くのことができると分かった」「活動の軸を見直すきっかけになった」との声が多く、講座内容への満足度は高い結果となりました。一方で「内容が濃く時間が足りなかった」「継続講座として学びを深めたい」との要望も寄せられました。

市民活動の立ち上げに関心をもつ個人や団体にとって、今後の実践への一歩を後押しする講座となりました。





コーナー



市民活動やまちづくり、SDGs、コミュニティデザイン、地域福祉など幅広い分野の旬な専門書や雑誌を取り揃えています。社会的課題の現状、課題解決の知恵や取り組み事例、組織運営や広報など、市民活動のヒントがきっと見つかります。

これから市民活動を始める人、すでに始めている人、まちづくりの最新動向に関心を寄せる自治体職員の方々、ぜひ一度、手に取ってご覧ください。
半年ごとにおすすめ本を紹介しています。

貸出期間は2週間、一人一回3冊まで（新着図書は貸出期間が異なります）

最新情報



新着図書の紹介

- ・「農の力で都市は変わるか」小口広太著、コモンズ
- ・「都市農業新時代-いのちとくらしをも守り、まちをつくる」中塚華奈編著、実生社
- ・「居場所づくりから始める、ごちゃまぜで社会課題を解決するための不完全な挑戦の事例集」濱野将行・高橋智美ほか著、クリエイツかもがわ
- ・「子ども・若者の居場所と貧困支援・学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組」横井敏郎編著、学事出版
- ・「都市・まちづくりのためのコミュニティ入門」小地沢将之著、学芸出版社
- ・「面識経済-資本主義社会で人生を愉しむためのコミュニティ論」山崎亮著、光文社
- ・「コンヴィヴィアル・シティ-生き生きした自律協生の地域をつくる」井上岳一・石田直美編著、学芸出版社
- ・「教育 DX は何をもたらすか-「個別最適化」社会のゆくえ」中西新太郎ほか著、大月書店
- ・「地域と協働する学校-中学校の実践から読み解く思春期の子どもと地域の大人のかかわり」時岡晴美ほか編著、福村出版

貸出備品

「貸出備品」について 大切なお知らせ



ご理解のほど
よろしくお願いします

これまで、市民活動のイベントや講座などで必要な備品類を貸出してきましたが、**経年劣化および破損により利用者の安全を十分に確保できなくなったため、以下の備品の貸出しを終了することとなりました。**
ご理解のほど、よろしくお願いします。

＜貸出終了備品＞

- ・パイプ TENT
- ・タープ TENT
- ・長机
- ・折りたたみ椅子（スチール製／屋外用）
- ・土嚢



備品貸出の
詳細はコチラ

＜予約受付日＞

◎DB 登録団体

利用日の **3ヶ月前** から

◎DB 登録外団体

利用日の **2ヶ月前** から

その他の貸出備品は、今まで通り貸出可能です。

◇プロジェクター ◇スクリーン 大 ◇放送設備一式

他、名札ストラップやアンケートボードなども貸出 OK！

借りたい物がある時は、サポセンに相談ください。

※貸出条件は、市民活動やボランティア等の公益活動に限ります。

備品 申込 手順

- ①「備品利用貸出規約」を確認
- ②「備品借用申請書」を提出
(申請書は HP からダウンロード可、記入後メールか直接窓口へ提出)
- ③借用当日 利用料支払い
- ④返却

ちょっと一言

館内には貸出文房具が揃っています。
筆記類・ホッチキス・はさみ・セロテープなど。
ご自宅で眠っている文房具類の寄付は大歓迎♡

※お願い※

- ・返却時は汚れを拭き取って下さい。
- ・不具合や破損等、気付いた点があった場合、必ず窓口にお知らせ下さい。

～大切、丁寧に使っていきましょう～



さぼちゃんが行く！

茅ヶ崎市合理的配慮促進条例を考える会（略称CGH：Chigasakishi Gouriteki Hairyo）

茅ヶ崎市が誰もがともに住みやすい街となることを目指し、障害者権利条約、障害者差別解消法等にある障がいのある方への合理的配慮について、茅ヶ崎市の条例の制定に向けて、専門家、障がい当事者とその家族、関係団体等と連携し、市民への各種啓発活動を行っています。（設立 2023 年 1 月、会員 15 名）

《代表の松永徹さん、事務局長の渡邊亮介さんからお話を伺いました》

合理的配慮ってご存じですか

皆さんは「合理的配慮」という言葉を聞いたことがありますか。ごく一般的な 2 単語の組合せですが、近年では障がいのある方々に関して使われています。発端は、2006 年に国連で採択された「障害者権利条約」の中でうたわれている reasonable accommodation を和訳したもので、CGH では「障がいのある方々の人権が障がいのない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせて行われる配慮のこと」と説明しています。

その後、2015 年に「障害者差別解消法」が施行され、神奈川県でも 2023 年に合理的配慮を促進する条例が制定される中、わが茅ヶ崎市でも条例を、ということで、障がい当事者とその家族を含めた有志で設立されたのが CGH です。



↑ 昨年開催した地域の方々によるシンポジウムも盛況

合理的配慮って具体的には

では、具体的には合理的配慮とはどんな場合に必要となるのでしょうか。2024 年の法律改正で、行政機関に加え事業者によるその提供が義務付けられました。分かりやすい事例としては、車いす利用者来訪の際の段差解消のために、簡易スロープで対応する、段差を越える介助をするなどの対応が挙げられます。バリアフリーという言葉もありますが、この例であれば、合理的配慮ではスロープの整備が必要なのではなく、障がい者と事業者とが建設的に対話し、事業者の過度な負担にならない範囲で、共に解決策を見出していくことが主眼です。

しかし、実際にはどういう場面でどこまで対応してくれるのか、対応すべきなのか、お互いに苦慮している状況が見られます。CGH では、双方で対応に困った事例等を広く募集しています。（右の投稿フォームをご利用ください→）



合理的配慮を広めていくために

団体設立以来、CGH はこの取組みを市民へ広めるために、地道な活動を積み重ねてきました。この分野で先進的な千葉県での条例策定に尽力された野澤和弘氏の講演会を皮切りに、他の自治体で制定された条例を専門家、学識者も交えて学習、研究してきました。昨年には、市内の商店の店主や郵便局の局長を招いて、日頃の対応を語り合うシンポジウムを開催しました。今後も市民の気運を高めていくために、新たな催しを企画していきます。

国の法律や県の条例があっても、合理的配慮を市民にもっと身近なものにするために、CGH は茅ヶ崎市独自の条例の制定にこだわります。そしてその内容も、啓発や宣言にとどまらず、対応を巡るトラブルを未然に防ぎ、解決していく仕組みがある実効性を伴ったものにすることが求められます。一方で、障がい者と事業者間の話にとどまらず、市民にいかに関わってもらうかに腐心していくことも大切にしています。

合理的配慮を共生のキーワードに

「そもそも合理的配慮は障がい者だけではなく、高齢者や子ども、病気の方など社会的弱者を対象として考えていくべきもので、それが多様性を認め合い、誰もが住みやすい街になるのだと思います。」と渡邊さん。そこで、めざす条例の仮称も「障害のある人もない人もともに暮らしやすい街づくり条例」としています。

長年、社会福祉法人で障がい者の支援に携わってこられた松永さんは続けます。「私たちは一貫して『誰もが地域で暮らすために』をテーマとして掲げてきました。このいわば『共生社会』こそが本当に豊かな街なのだと思います。その鍵になるのが、一人ひとりを大切にしよう合理的配慮が浸透していくことです。

そして、条例が制定されることで、市民がより主体的にそうした街づくりに関わるようになり、それが文化となり、当たり前のことになることを願っています。」



↑ 先月は社会福祉法人のイベントに参加して活動を PR

お知らせ

令和8年度実施「市民活動げんき基金補助事業（市民活動推進補助事業）」募集中

「市民活動げんき基金」を財源に、市民の自主的で公益的な事業（*）を財政面（補助金の交付）や相談・情報提供等により支援する制度です。団体活動を軌道にのせたい、活動の拡充や発展を目的に次の一歩として新規事業を展開したいなど、市内で主に活動している市民活動団体が応募できます。

（*）「スタート支援」「ステップアップ支援」とともに、選考の視点には「公益性（事業の成果が市民や地域の利益になる/つながるものか、ニーズに適した事業か）」や「発展性」「費用の妥当性」があります。

応募書類の提出は
締切日の1週間前
を目指そう！



制度の詳細、募集要項は
市HPをチェック！

募集期間：令和7年12月19日(金)まで

※詳細・お問い合わせは市民自治推進課・協働推進担当まで TEL：0467-81-7126 FAX：0467-87-8118

◆「伝わる！企画書作成相談会」◆

読み手に伝わる企画書の書き方や有効な予算の立て方など、申請書類作成をサポートします。

- ・期 間：12月4日(木)まで（期間終了後、当初設定の時間帯以外でも対応できる場合があります。）
- ・場 所：ちがさきサポセン（オンライン「ZOOM」対応も可能）
- ・申込み：サポセン窓口（88-7546）かメールまたは右記QRコードより



申込みはコチラ

■ パソボラ湘南主催 IT 支援

パソコン・スマホのお悩み事をサポセンで相談！

★開催日：第2・第4月曜日（無料・予約制）

①13：00～14：00 ②14：00～15：00 ③15：00～16：00

※各回定員2名 ※申込受付：毎月1日から

※お申込みは、直接 NPO 法人パソボラ湘南、

担当：杉岡さんへ電話で申込 090-9543-0070

但し、16時以降に電話を！ 詳細はコチラ▶



■ 広報ちがさき「市民の活動だより」

毎月1日発行の「広報ちがさき/市民の活動だより」
コーナーで市民活動団体を紹介しています。

▷1/1号：ちがさき和食文化継承会

▷2/1号：「山田耕筰」と「赤とんぼ」を愛する会

▷3/1号：こどたん^{プラス} + 2026

紙面の都合上、掲載が延期される場合があります

サポセンカレンダー

<○休館日、□館内利用制限日>

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

- ・12/5 PM IT スキルアップミニ講座(インスタ)
- ・12/13 AM~PM 被爆ピアノコンサート
- ・12/20 PM こどたん+2026 場所時間調整会議
- ・12/21 PM SDGs カフェ 14
- ・12/27 PM 年末年始休暇

1月

日	月	火	水	木	金	土
				①	②	③
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- ・1/25 PM NPO 講座(資金づくり)
- ・1/31 PM SDGs カフェ 15

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

- ・2/23 PM 茅ヶ崎ミライトーク

※最新情報はホームページにてご確認ください。

主催イベント開催のため、フリースペースのご利用を制限させていただく場合があります。

ちがさき市民活動サポートセンター

開館時間 9:30～21:30（休館日：毎月第3水曜日、年末年始(12/28～1/3)）

アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩10分程度・駐車場14台・障がい者用駐車場1台・駐輪場あり

連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎3-2-7 TEL/FAX：0467-88-7546

E-mail：s-center@pluto.plala.or.jp URL：https://sapocen.net/

編集・発行 認定特定非営利活動法人 NPOサポートちがさき

（指定管理期間：2021年4月1日～2026年3月31日）

サポセンキャラクター
“さぼちゃん”



サポセン HP